

報告タイトル：

『EU の国際政治』再考 - - EU 外交研究の視点から

鶴岡 路人 (防衛研究所)

【報告の成果と課題】

本報告では、EU 外交 (European foreign policy) 及び EU 外交研究を題材に、(1) EU 外交研究に見られる特徴、(2) EU 外交の発展と EU 外交研究の展開の連関、(3) EU 外交及び EU 外交研究の問題点・課題、について検討した。それぞれの項目における、報告の概要は以下のとおりである。

(1) 現実の EU 自体において対外関係の比重が低かったために、EU 研究においても、当初は対外関係研究の比重が低かったが、EU 外交の発展とともに、主に実証面で研究が発展してきた。1990 年代末の ESDP (欧州安全保障防衛政策) は、新たな領域であったが故に学問的な注目も高かったが、その結果、EU 外交研究における ESDP 研究偏重の傾向が見られる。

(2) 現実の EU 外交の発展と EU 外交関係の展開には相関関係があるものの、両者は完全に一致するわけではない。そうした中で、「規範的パワー論」等の議論が活発化した。他方で、2000 年代前半から、「EU 外交再評価」とも言い得る潮流が発生している。ESDP の文脈における EU (諸国) の軍事能力向上が頓挫する中で「EU 再評価」が進むパラドクスが見られる。EU 外交研究には、EU 外交の実態を追認ないし正当化する役割を担う部分があるが、この点について批判的な検証が不可欠。

(3) EU 外交研究の常識や前提が、特定のサークル以外にどれだけ共有されているか？EU 中心主義をどのように乗り越えるのか？EU の特殊性と普遍性をどのように捉えるか？米欧間の差異の強調と非西洋世界に対しての西洋としての米欧の共通性という一見相反する側面をどのように調和させるか？EU 外交関連分野での諸政策研究の統合・接続をどのように実現するか？域内政策研究としての EU 外交研究をどのように進めるか？

今回の報告は、まとまった結論を出すことを目的としたものではなく、EU 外交研究の抱えている問題点を明らかにし、今後の研究アジェンダを多面的に検討することに主眼を置いたものである。そして、(3) 部分で論じたように、数多くの課題を抽出した。今後は、これらに具体的に取り組むことはもちろんであるが、本報告で試みたような EU 外交研究に関する批判的レビューをまとまった形で公刊する作業も必要であろう。早急に取り組みたい。